

## 〈中部版スクラム教育事業〉 令和8年度 特別支援教育研修会

【日 時】 令和8年8月7日(金)

【対象者】 特別支援教育主任、特別支援教育コーディネーター、学級担任等(各校2名以上)

【ねらい】 児童生徒の学習上・生活上の困り感を環境との関係性で捉え、学級全体への指導・支援の工夫を考えるとともに、通常学級の実践事例を通して人的環境である教師としての在り方を振り返る。

### 【内 容】

○障がい社会モデルで捉えた上での基礎的環境整備と合理的配慮の関係

○基礎的環境整備と合理的配慮の理解をもとにした学級全体への指導・支援の工夫

○事例発表:倉吉市立関金小学校 松井 由香子 教諭

「誰一人おいていかない『あったかいクラス』」

北栄町立大栄中学校 金森 玲子 教諭

「UD 授業をめざして」

講義:鳥取県教育委員会事務局 参事監兼特別支援教育課長 加藤 典子 氏

「子どもの学びの充実に向けて大切にしたいこと」

・学校教育の土台となる教師と児童生徒との信頼関係を築くことの重要性

・人的環境としての教師の在り方や子どもの学びたい思いを大切にしたい授業づくり

### 【参加者の振り返りより】

- ◆特別支援教育は個に応じた教育でも、特別な支援でもない。学級全体の中で行う誰にとっても必要な支援であるということを学んだ。
- ◆「聞き方」ひとつとっても、最後まで聞くことができて、寄り添って聞くことができて、自分の心があたたくその子を受け止めているか、普段の接し方を振り返ることの多い研修会だった。
- ◆特別支援教育は校内すべての職員が行うべきであるし、そのように全職員に働きかけていかなければいけないと感じた。
- ◆大切なことは変わらない。人的環境づくりにこれからも努力していきたい。
- ◆学校で授業づくりについて話し合う中で、子どもの姿を思い、学び方を考え、委ね方を考えて、問いを考えている。そのことが、すべて一人ひとりを思い、強みを活かそうとしていることなのだったと思った。日々が、すでに特別支援教育です。

